



## **Cisco UCS Central インストレーション/アップグレード ガイド リリース 1.3**

初版：2015 年 04 月 08 日

最終更新：2016 年 05 月 03 日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2015-2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに vii

対象読者 vii

表記法 vii

Cisco UCS の関連ドキュメント ix

マニュアルに関するフィードバック ix

### 概要 1

Cisco UCS Central リリース 1.4 のインストール 1

Cisco UCS Central リリース 1.4 へのアップグレード 2

### Cisco UCS Central 1.4 の概要 3

Cisco UCS Central 1.3 の機能の概要 3

Cisco UCS Central HTML 5 UI の概要 4

HTML5 UI の使用 4

HTML5 UI の動作と設計変更 7

マルチバージョン管理サポート 9

機能サポート マトリクス 10

### インストールの前提条件 13

サポートされるプラットフォーム 13

サポートされる Web ブラウザ 14

必須のポート 14

システム要件 17

Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件 20

### Cisco UCS Central のインストール 21

インストールの概要 21

Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手 22

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central インストール 22

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルのインストール 23

VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール	25
Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール	27
KVM ハイパーバイザへの Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール	30
クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール	32
共有ストレージの NFS サーバのセットアップ	34
NFS サーバまたはディレクトリの変更	35
RDM 共有ストレージから NFS 共有ストレージへの変更	35
Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ	36
VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ	37
ノード A への Cisco UCS Central のインストール	38
ノード B への Cisco UCS Central のインストール	40
データベース サーバ情報	42
スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central VM の復元	42
クラスタ モードでの Cisco UCS Central VM の復元	44
<b>ログインおよび設定</b>	<b>47</b>
ログインおよび設定の概要	47
Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト	47
Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト	48
admin パスワードのリセット	49
パスワードと共有秘密のガイドライン	49
共有秘密のリセット	50
Cisco UCS Manager での共有秘密のリセット	51
<b>Cisco UCS Central のアップグレード</b>	<b>53</b>
Cisco UCS Central のリリース 1.3 へのアップグレード	53
スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード	57
クラスタ モードでの Cisco UCS Central のアップグレード	57
スタンドアロン モードからクラスタ モードへ Cisco UCS Central を変更	58
<b>Cisco UCS Manager の使用</b>	<b>61</b>
Cisco UCS Cisco UCS Central	61
Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録	63
Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録	64
Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除	65

Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除	65
---	----





## はじめに

- [対象読者, vii ページ](#)
- [表記法, vii ページ](#)
- [Cisco UCS の関連ドキュメント, ix ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック, ix ページ](#)

## 対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

## 表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのような GUI 要素は、[GUI 要素] のように示しています。  ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメインタイトルは、[メイン タイトル] のように示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 ( <i>italic</i> ) で示しています。

テキストのタイプ	説明
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体 ( <b>bold</b> ) で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体 ( <i>italic</i> ) で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x   y   z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x   y   z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



**ワンポイントアドバイス**

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

**警告****安全上の重要事項**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

## Cisco UCS の関連ドキュメント

**ドキュメントロードマップ**

すべての B シリーズ マニュアルの完全なリストについては、<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc> で入手可能な『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc> で入手できる『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。

管理用の UCS Manager と統合されたラック サーバでサポートされるファームウェア バージョンとサポートされる UCS Manager バージョンについては、『[Release Bundle Contents for Cisco UCS Software](#)』を参照してください。

**その他のマニュアル リソース**

ドキュメントの更新通知を受け取るには、[Cisco UCS Docs on Twitter](#) をフォローしてください。

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML<mailto:ucs-docfeedback@cisco.com> ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。





## 第 1 章

# 概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Central リリース 1.4 のインストール, 1 ページ](#)
- [Cisco UCS Central リリース 1.4 へのアップグレード, 2 ページ](#)

## Cisco UCS Central リリース 1.4 のインストール

Cisco UCS Central リリース 1.4 をインストールするには、次のオプションのどちらかを使用します。

- **スタンドアロンモード**：スタンドアロンインストールでは、リリース 1.3 以前と同じ方法で仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールできます。
- **クラスタモード**：クラスタインストールは、管理環境をさらに安定させます。クラスタインストールを使用して、フェールオーバーおよびハイアベイラビリティを有効にするにプライマリおよびセカンダリノードに Cisco UCS Central をインストールします。

ハイアベイラビリティのためにクラスタモードで Cisco UCS Central をインストールする場合、2 台の仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールします。両方の仮想マシンに必要な要件は次のとおりです。

- 同じサブネット上にある
- 同じ仮想 IP アドレスを共有する
- 同じ共有ストレージを共有する
- Cisco UCS Central の同じリリースバージョンを実行しなければならない

これらの一方がプライマリノードで、他方がスタンバイノードです。プライマリノードがダウンした場合、スタンバイノードは最小限の中断で引き継ぎます。クォーラム情報は登録された Cisco UCS ドメインに保存されます。

**共有ストレージ**：スタンドアロンモードで Cisco UCS Central をインストールする場合、追加の共有ストレージ（Raw Lun）を使用できます。スタンドアロンインストールをクラスタセットアップに変換する場合、共有ストレージと同じストレージを使用できます。

リリース 1.3 以降、高可用性を実現する Cisco UCS Central のクラスタインストールでは、共有ストレージのために RDM ではなく NFS のサポートが必要です。

## Cisco UCS Central リリース 1.4 へのアップグレード

Cisco UCS Central リリース 1.4 にアップグレードする際は、スタンドアロンモードまたはクラスタモードにアップグレードできます。Cisco UCS Central 機能は、スタンドアロンモードとクラスタモードで同じです。



### 重要

Cisco UCS Central をアップグレードする前に、登録済みドメインが Cisco UCS Manager のサポートされているリリースバージョンにアップグレードされていることを確認します。Cisco UCS Central リリース 1.4 には、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2) 以降が必要です。Cisco UCS Central をアップグレードする前に Cisco UCS Manager をアップグレードしなければ、すべての登録済み Cisco UCS ドメインはアップグレード後から Cisco UCS Central アップデートの受信が停止されます。

Cisco UCS Central を 1.4 にアップグレードする前に、次のことを実行する必要があります。

- Cisco UCS Manager が 2.1(2) 以降であることを確認します。完全な機能サポートを保証するために、Cisco UCS Manager を最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。
- リリース 1.0 または 1.1 から Cisco UCS Central をアップグレードする場合は、まず Cisco UCS Central 1.2 にアップグレードしてから、リリース 1.4 にアップグレードする必要があります。Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1 をアップグレードするには、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-central-software/products-installation-guides-list.html>を参照してください。

サポートされるアップグレードオプション、要件、手順については、[Cisco UCS Central のリリース 1.4 へのアップグレード](#)を参照してください。



## 第 2 章

# Cisco UCS Central 1.4 の概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Central 1.3 の機能の概要, 3 ページ](#)

## Cisco UCS Central 1.3 の機能の概要

Cisco UCS Central リリース 1.3 では、データセンターとリモート管理ロケーションの両方において高可用性を持ち、単一の管理ポイントから Cisco UCS ドメインを管理することができる、使いやすい統合ソリューションによってデータセンター環境を管理することができます。Cisco UCS Central 1.3 では、効率的にサーバ、ストレージ、およびネットワークポリシーを管理し、データセンター全体のネットワークトラフィックのレポートを生成できます。

このリリースではさらに、新しく再設計された HTML5 ベースのユーザ インターフェイスが導入されています。次の表では、このリリースの主な新しい機能と説明についてリスト表示します。

機能	説明
KVM ハイパーバイザ	KVM ハイパーバイザに Cisco UCS Central をインストールする機能。
スケジュール バックアップ	ドメインのバックアップ時間をスケジュールする機能。異なるドメイングループの異なるバックアップ時刻をスケジュールできる柔軟性を備えています。
NFS 共有ストレージ	高可用性を実現する Cisco UCS Central のクラスターインストールでは、共有ストレージのために RDM ではなく NFS のサポートが必要です。
ドメイン固有の ID プール	ドメイン固有の ID プールがグローバル サービス プロファイルで利用できるようになりました。

機能	説明
ローカル サービス プロファイルの vLAN 消費	vLAN をプルするサービス プロファイルを展開せずに Cisco UCS Central CLI のみを介して UCS Manager インスタンスに vLAN をプッシュする機能。
M シリーズ サーバ	シスコの M シリーズ サーバの事前対応サポート。
その他の機能拡張	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ダイナミック ポートを使用する SQL Server への接続。</li> <li>• SQL 2014 データベースおよび Oracle 12c データベースのサポート。</li> </ul>

## Cisco UCS Central HTML 5 UI の概要

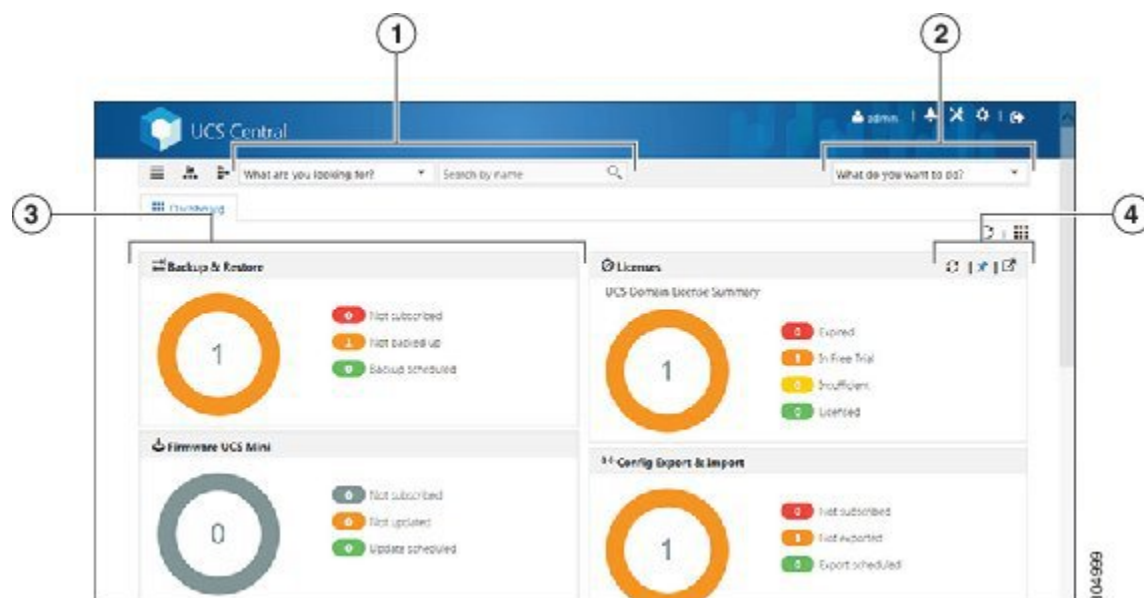
Cisco UCS Central HTML5 ベースのユーザインターフェイスは、管理のための柔軟性とタスク ベースの操作性を提供します。

ダッシュボードには、システム内のコンポーネントの概要が表示されます。頻繁に使用するコンポーネントを固定表示して、運用要件に合わせてダッシュボードをカスタマイズすることができます。ダッシュボード上のオブジェクトをクリックすると、システム内の関連ページに移動できます。HTML 5 UI の簡単な説明を参照するには、『[Video: Introducing Cisco UCS Central 1.4](#)』をご覧ください。

## HTML5 UI の使用

### ダッシュボード

ダッシュボードウィジェットを固定表示し、組織の要件に合わせてダッシュボードをカスタマイズできます。基本的なダッシュボード構造を以下に示します。

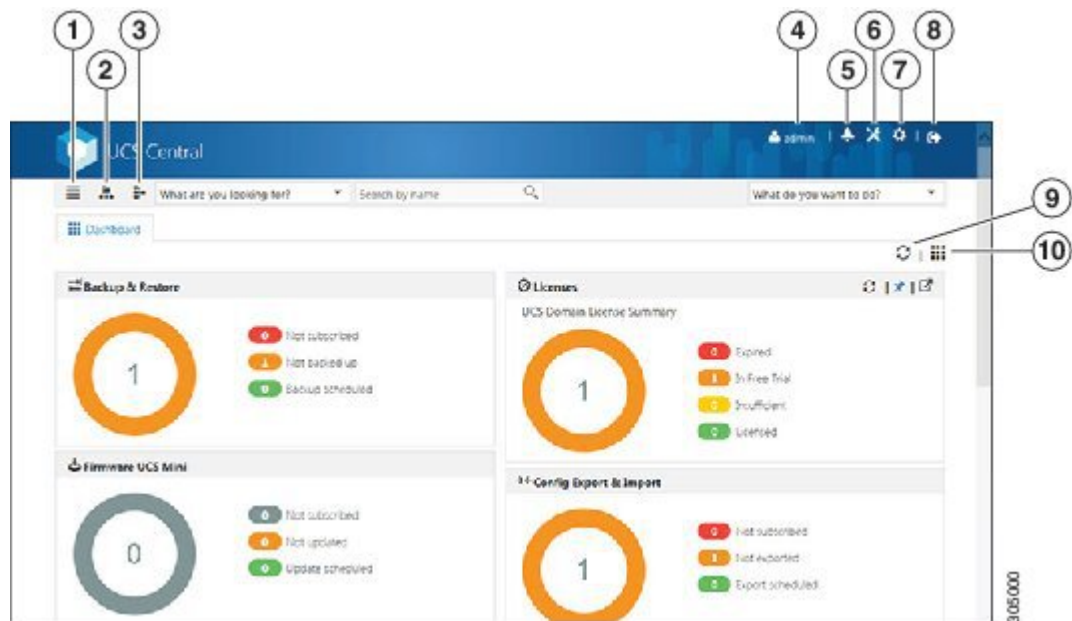


項目	説明
1	<p>検索バー（What are you looking for?）。次を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エンティティタイプを選択して、システム内のエンティティを名前で検索します。空の検索文字列はすべてのエンティティを返します。</li> <li>必要に応じて場所とステータスで検索結果を絞り込みます。</li> <li>検索結果内のエンティティをクリックすると、詳細が新しいページに表示されます。</li> </ul>
2	<p>アクションバー（What do you want to do?）。ここでは、作成、スケジューリング、インストール、エクスポート、およびインポートを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドロップダウンをクリックして使用可能なアクションを表示し、タスクを選択するか、フィールドにタスクを入力して、ダイアログボックスを開き、タスクを実行します。</li> </ul>
3	<p>ダッシュボードウィジェット。このダッシュボード上に任意のウィジェットを固定表示できます。ウィジェット上にマウスを移動すると、ウィジェットのメニューバーで他のオプションが有効になります。</p>

項目	説明
4	<p>ダッシュボード上のウィジェット内に追加のオプションが表示されている場合は、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この特定のウィジェットに表示された情報を更新する。</li> <li>ダッシュボードからこのウィジェットの固定表示を解除する。</li> <li>この操作に関する詳細ページを開く。</li> </ul>

### ナビゲーションアイコン

次のナビゲーションアイコンが製品のナビゲートと管理タスクの実行を支援します。



項目	説明
1	<p>検索アイコン。クリックすると、ドメイン、ファブリック インターコネクト、サーバ、シャーシ、FEX、vLAN、vSAN、サービスプロファイル、テンプレート、プール、ポリシー、IDユニバースなどのシステム内の物理的および論理的なインベントリ関連エンティティが表示されます。これらのエンティティのいずれかをクリックすると、関連ページが開いて、詳細が表示されます。</p>
2	<p>組織アイコン。クリックすると、システム内の組織ルートとその他のサブ組織が表示されます。ルートまたはサブ組織をクリックすると、選択した組織の詳細ページを表示できます。</p>



項目	説明
3	ドメイングループアイコン。クリックすると、システム内のドメイングループルートとその他のドメイングループが表示されます。ドメイングループをクリックすると、詳細ページを表示できます。
4	ユーザ設定アイコン。クリックすると、[User Settings] が開きます。このページでは、[Change Password]、[Restore Dashboard Defaults]、および [Show First Launch Experience] を実行できます。
5	アラートアイコン。クリックすると、[Pending Activities]、[System Faults]、[Domain Faults]、[Events]、[Audit Logs]、[Core Dumps]、[Sessions]、および [Internal Services] が表示され、そこに移動できます。
6	操作アイコン。クリックすると、[Firmware]、[Backup & Restore]、[Export & Import]、[Licenses]、および [Tech Support] が表示され、そこに移動できます。
7	システム設定アイコン。クリックすると、[System Profiles]、[System Policies]、[Users]、[Authentication]、および [SNMP] が表示され、そこに移動できます。
8	ログアウトアイコン。クリックすると、アクティブな UCS Central セッションからログアウトします。
9	更新アイコン。クリックすると、固定表示されたすべてのウィジェット内の情報が更新されます。ウィジェットごとに、そのウィジェットのデータを更新するための個別の更新アイコンが付いています。
10	ダッシュボードウィジェットライブラリアイコン。クリックすると、使用可能なウィジェットが表示され、特定のウィジェットをクリックするとそれがダッシュボードに固定表示されます。

## HTML5 UI の動作と設計変更

### 機能サポート

従来のフラッシュベースのユーザインターフェイスで使用可能な次の機能は、現時点では、新しい HTML5 ユーザインターフェイスではサポートされていません。

- ポリシー インポート

- しきい値ポリシー
- 統計情報



(注) Cisco UCS Central リリース 1.4(1a)以降のリリースで導入された機能はHTML5 ユーザーインターフェイスでのみ使用できます。

### 設計に基づく動作の変更

- サービス プロファイルを作成する前に、グローバル サービス プロファイル テンプレートを作成する必要があります。
- 次のインライン オプションはサービス プロファイルで使用できません。
  - ブート ポリシー
  - スタティック ID

既存のグローバル サービス プロファイルにこれらのオプションのいずれかが含まれている場合は、HTML5 UI でグローバル サービス プロファイルを編集できません。

- ブート ポリシー下の iSCSI ターゲット設定は Flex UI で使用できません。
- vNIC および vHBA 配置はインターフェイス配置と呼ばれるようになりました。
- 登録ポリシーはドメイン グループ資格ポリシーと呼ばれるようになりました。
- ID 範囲資格ポリシーは ID 範囲アクセス コントロール ポリシーと呼ばれるようになりました。
- ID 範囲アクセス コントロール ポリシー用として認定された IP アドレスは存在しません。
- 唯一のバックアップオプションが全設定バックアップです。論理設定やシステム設定などの他のバックアップ タイプはサポートされません。
- ローカル サービス プロファイルは、ドメイン グループの代わりに組織からホスト ファームウェア ポリシーを取得します。
- HTML5 UI でインポートが失敗すると、メッセージにインポート失敗の原因が表示されます。エラーを修正して、インポートの設定を再送信します。
- ローカル サービス プロファイル インベントリが表示されません。
- 現在、ローカル サービス プロファイルで使用され、ドメイン グループに属しているメンテナンス ポリシーとスケジュールは HTML5 UI で使用できません。

## マルチバージョン管理サポート

Cisco UCS Central リリース 1.1(2a) 以降では、複数のバージョンの Cisco UCS Manager で複数の Cisco UCS ドメインを同時に管理する機能が提供されます。Cisco UCS Central では、ドメイン登録時に各 Cisco UCS ドメインの機能が識別されます。この機能により、複数バージョンの Cisco UCS Manager を Cisco UCS Central とシームレスに統合し、管理とグローバル サービス プロファイルの展開を実現できます。

Cisco UCS Central を新しいリリースにアップグレードする場合は、使用している機能によっては、登録された UCS ドメインが Cisco UCS Central と互換性があることを確認するのに Cisco UCS Manager のリリース バージョンすべてをアップグレードする必要がない場合があります。

Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するときは、Cisco UCS Central はインベントリ情報とともにドメインから次の情報を取得します。

- Cisco UCS Manager のリリース バージョン
- ドメインの使用可能なサポート対象機能のリスト

使用可能な機能は、管理機能マトリクスとして Cisco UCS Central に送信されます。この情報に基づいて、Cisco UCS Central は登録済みの各ドメインでサポートされる機能のリストを作成します。Cisco UCS ドメインの機能に基づいて、Cisco UCS Central は特定のグローバル管理オプションがドメインで使用可能かどうかを決定します。Cisco UCS Manager インスタンスの旧バージョンを含むドメインのグループ上でのグローバルサービスプロファイルの配置などの管理タスクを実行するときは、機能マトリクスに基づいて Cisco UCS Central が次の項目を実行します。

- サポートされるドメインのみへのタスクの提供。
- 機能がサポートされていないドメインに対するバージョン非互換性メッセージの表示。

### Cisco UCS Manager でサポートされる機能

Cisco UCS Central CLI を使用して Cisco UCS ドメインでサポートされている機能を確認できます。登録された Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager のバージョンに基づいて、Cisco UCS Central CLI はサポートされる機能のリストを次の 4 つのカテゴリで作成します。

- **サーバ機能マスク**：グローバル サービス プロファイル、ポリシー マッピングおよびインバンド管理、詳細ブート順を含む
- **ネットワーク機能マスク**：なし
- **ストレージ機能マスク**：FC ゾーン分割および iSCSI IPv6
- **環境機能マスク**：電源グループ、リモート操作、UCS 登録、再接続への予測影響

### 管理の除外

マルチバージョンのサポートでは、グローバル管理から一部の機能を除外する機能も提供されます。登録された UCS ドメインにログインし、Cisco UCS Manager CLI から特定の機能をオフにできます。次のグローバル管理機能を無効にできます。

- **グローバル サービス プロファイルの展開**：サーバプールでグローバル サービス プロファイルを展開し、プール内のサーバの 1 つでグローバル サービス プロファイルの展開を無効にすると、Cisco UCS Central はグローバル サービス プロファイルの展開からサーバを除外します。
- **インバンド管理**：インバンド管理機能を有するサービスプロファイルは、インバンド管理機能を除外したサーバには展開されません。
- **ポリシー マッピング**：この Cisco UCS ドメインから Cisco UCS Central へのポリシーまたはポリシー コンポーネントのインポートを無効にします。
- **リモート管理**：Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメイン内の物理デバイスの制御を制限します。

いつでも Cisco UCS Manager CLI を使用してこれらの機能を有効にして、登録された Cisco UCS ドメインのグローバル管理機能をいつでも復元できます。

## 機能サポートマトリクス

次の表に、Cisco UCS Central の機能と、それらの機能がサポートされる Cisco UCS Manager のリリース バージョンのリストを示します。

Cisco UCS Central の機能	サポートされ る Cisco UCS Central のバー ジョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン			
		2.1(2a)/2.1(3x)	2.2(1x)	2.2(2x)/2.2(3x)	3.0(1x)
マルチバージョン 管理のサポートと サポートされる Cisco UCS Manager 機能の表示	1.1(2a)	No	Yes	Yes	Yes
ポリシー/ポリシー コンポーネントお よびリソースのイ ンポート		No	Yes	Yes	Yes
バックアップ イ メージファイル用 のリモートローケ ーションの指定		No	No	Yes	Yes
サードパーティ証 明書		No	No	Yes	Yes
IPv6 インバンド管 理サポート		No	No	Yes	Yes
再接続への予測影 響	1.2(1a)	No	No	Yes (注) 2.2(3x) 以降 での みサ ポー ト	Yes
高精度のブート順 制御		No	Yes	Yes	Yes

Cisco UCS Central の機能	サポートされ る Cisco UCS Central のバー ジョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン			
		2.1(2a)/2.1(3x)	2.2(1x)	2.2(2x)/2.2(3x)	3.0(1x)
スクリプト可能な vMedia	1.2(1e) 以降	No	No	Yes (注) 2.2(2c) 以降 の 2.2(x) リ リー スで のみ サ ポー ト	No (注) 3.0(2) 以降 でサ ポー ト



(注)

- ポリシー/ポリシー コンポーネントまたはリソースの検索は、Cisco UCS Manager のリリース 2.1(2x) と 2.1(3x) でサポートされます。ポリシーをインポートするには、Cisco UCS Manager のリリース 2.2(1b) 以降が必要です。
- Precision Boot Order Control については、ブレードサーバが CIMC バージョン 2.2(1b) 以降でなければなりません。



## 第 3 章

# インストールの前提条件

この章は、次の項で構成されています。

- [サポートされるプラットフォーム, 13 ページ](#)
- [サポートされる Web ブラウザ, 14 ページ](#)
- [必須のポート, 14 ページ](#)
- [システム要件, 17 ページ](#)
- [Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件, 20 ページ](#)

## サポートされるプラットフォーム

次の表に、Cisco UCS Central のインストール用にサポートされるプラットフォームを示します。

ハイパーバイザ	サポートされるバージョン
Microsoft Hyper-V	Windows 2008 R2 SP1 Windows 2012 Microsoft Hyper-V Server 2012 R2
VMware ESX	<ul style="list-style-type: none"><li>• ESX 5.0 U3</li><li>• ESX 5.1</li><li>• ESX 5.5</li><li>• ESX 6.0</li></ul>
KVM ハイパーバイザ	Red Hat Enterprise Linux 6.5 の KVM ハイパーバイザ

## サポートされる Web ブラウザ

Cisco UCS Central GUI でサポートされる Web ブラウザは、Cisco UCS Central GUI を実行するコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。

オペレーティング システム	サポートされる Web ブラウザ
Microsoft Windows	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Internet Explorer 10 以上</li> <li>• Firefox 29 以降</li> <li>• Chrome 34 以降</li> </ul> <p>(注) Flash ベースの UI を使用する場合、Adobe Flash Player 11.7 以降をインストールする必要があります。</p>
Mac OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Firefox 29 以降</li> <li>• Chrome 34 以降</li> <li>• Safari 6 以降</li> </ul> <p>(注) Flash ベースの UI を使用する場合、Adobe Flash Player 11.7 以降をインストールする必要があります。</p> <p>Chrome ブラウザでは、バンドルされた Flash プレーヤーを削除してから Adobe Flash プレーヤーをインストールします。</p>
Linux RHEL	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Firefox 29 以降</li> <li>• Chrome 34 以降</li> </ul> <p>(注) Flash ベースの UI を使用する場合、Adobe Flash Player 11.7 以降をインストールする必要があります。</p>

## 必須のポート

Cisco UCS Manager は、ソースの宛先として FI (FI-A または FI-B IP アドレス) の個々の IP アドレスを使用して、Cisco UCS Central と通信します。Cisco UCS Central は、宛先アドレスとして VIP を使用して Cisco UCS Manager と通信します。



### Cisco UCS Central と Cisco UCS ドメイン間の通信

通常、既存のすべての Cisco UCS 管理ドメインの IP アドレスは、共通の管理ネットワーク上にあります。それ以外の場合、Cisco UCS Central からすべての下位管理ドメインへのルーティングアクセスが確立されれば、Cisco UCS Central は機能します。このため、ファイアウォール、プロキシ、および他のセキュリティ システムで、Cisco UCS Central と登録されたすべての Cisco UCS ドメインの間の連続的な通信を可能にするため、次のポート上で読み取り/書き込みアクセスを許可するように設定されている必要があります。

次の表にリストされているポートは、Cisco UCS Central 上で開く必要があります。これらのポートには、UCS ドメインからアクセスします。



(注) 使用するバージョンと UI によっては、必要のないポートもあります。たとえば、Cisco UCS Manager リリース 2.2(2) 以降では NFS ポートは必要ありません。

表 1 : Cisco UCS Manager リリース バージョン 2.1(x) と 2.2(1) 以前にはポートが必要です。

ポート番号	デーモン	プロトコル	使用法
32803	LOCKD_TCPPOINT	TCP および UDP	Linux NFS ロック
892	MOUNTD_PORT	TCP および UDP	Linux NFS マウント
875	RQUOTAD_PORT	TCP および UDP	Linux リモート クォータ サーバ ポート (NFS)
32805	STATD_PORT	TCP および UDP	NFS ファイル ロック サービスで 使用される Linux ロック リカバリ
2049	NFS_PORT (注)	TCP および UDP	Linux NFS リスニング ポート
111	SUNRPC	TCP および UDP	Linux RCPBIND リスニング ポート (NFS)
443	HTTPS_PORT	TCP および UDP	Cisco UCS Central および Cisco UCS ドメインと UCS Central GUI との ファイアウォール経由の通信をイ ネーブルにします。

ポート番号	デーモン	プロトコル	使用法
80	HTTP	TCP	Flash UI を使用した Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信。 このポートは、Cisco UCS Central CLI を使用して設定できます。  (注) Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。
843	PRIVATE_PORT	TCP および UDP	Flash UI と UCS Central VM との UCS Central 通信  (注) Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。

表 2: **UCS Mini**、**Cisco UCS Manager 3.0(1)**、または **3.0(2)** など、**Cisco UCS Manager** リリース バージョン **2.2(2)** 以降に必要なポート。

ポート場号	デーモン	プロトコル	使用法
443	HTTPS_PORT	TCP および UDP	Cisco UCS Central および Cisco UCS ドメインと UCS Central GUI との通信をイネーブルにします。
80	HTTP	TCP	Flash UI を使用した Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信。 このポートは、Cisco UCS Central CLI を使用して設定できます。  (注) Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。
843	PRIVATE_PORT	TCP および UDP	Flash UI と UCS Central VM との UCS Central 通信  (注) Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。

### Cisco UCS Central とクライアント ブラウザ間の通信

次のポートが Cisco UCS Manager 上で開いている必要があります。Cisco UCS Central とクライアント ブラウザ間での通信をイネーブルにするためには、Cisco UCS Central から次のポートにアクセスします。

Port Number	Daemon	プロトコル	使用法
443	HTTPS_PORT	TCP	Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信をイネーブルにします。このポートは常に必要です。
80	HTTP	TCP	Flash UI を使用した Cisco UCS Central と UCS ドメインとの通信。このポートは、Cisco UCS Central CLI を使用して設定できます。  (注) Cisco UCS Manager HTML5 UI を使用する場合、このポートは必要ありません。

### AD サーバ通信

LDAP ポート 389 は、AD サーバ上で開いている必要があります。このポートは、MS AD LDAP 連携および通信のために Cisco UCS Central からアクセスします。



(注) Cisco UCS Central は、LDAP over SSL/TLS をサポートするために STARTTLS を使用します。ポート 389 が必要な唯一のポートです。

## システム要件

### スタンドアロンインストール

スタンドアロンモードで Cisco UCS Central をインストールする場合は、次のシステム要件を満たしていることを確認します。

### サーバタイプ

Cisco UCS Manager に管理されないまたは Cisco UCS ドメインに統合されないスタンドアロンラック サーバで実行される VMware または Hyper-V hypervisor 上に、Cisco UCS Central を配置することを推奨します。サーバは、可能であれば高速のストレージアレイからプロビジョニングされる、高速なデータストアである必要があります。

## サーバ要件

以下の表に、次のプラットフォームでの Cisco UCS Central のインストールの最小要件を示します。

- ESX
- Hyper-V
- KVM ハイパーバイザ

項目	EXS、Hyper-V、および KVM ハイパーバイザの最小要件
ディスク 1	40 GB
ディスク 2	40 GB
RAM	12 GB
vCPU コア	4 コア
ディスク読み取り速度	75 Mbps 以上 125 MBps 以上が推奨される速度です。



(注)

- さらに多くのサーバ（たとえば、200 ドメイン/6000 サーバ）を管理する場合は、RAM を 16 GB に増やしてください。
- Cisco UCS Central のパフォーマンスは、vCPU、RAM またはディスク速度の最小要件を満たしていないサーバで導入する場合は保証されません。
- VM の設定を変更する前に、電源をオフにしてください。
- クラスタセットアップに NFS を使用する場合、適切なシステムパフォーマンスを確保するため、ネットワーク遅延が 0.5 ms 未満となるようにします。

サーバのディスク読み込み速度が Cisco UCS Central の展開中に最低限必要な速度を下回る場合、インストーラが警告メッセージを表示しますが、展開を完了できます。ただし、ディスク読み込み速度が動作時に最低限必要な速度を下回る場合、ディスク読み込み速度の遅さに応じて、次の表に示す障害が Cisco UCS Central で発生します。

サーバのディスク読み込み速度	障害レベル
75 Mbps 以下	致命的な障害
75 ～ 100 Mbps	重大な障害
100 ～ 125 Mbps	マイナーな障害

サーバのディスク読み込み速度	障害レベル
125 Mbps 以上	該当なし

### サポートされるデータベース サーバ

次の統計情報収集用データベース サーバがサポートされています。

- Oracle Database 11g Enterprise Edition Release 11.2.0.1.0 64 ビット製品以降
- PostgreSQL Server 9.1.8 64 ビット以降
- Microsoft SQL Server 2012 (SP1) - 11.0.3000.0 (X64) 以降
- Microsoft SQL Server 2008 R2 10.50.1600.1 (X64) SP1 以降

統計情報データが外部データベースサーバに保存されている場合、データベースサーバのディスク容量要件として次の参照データを考慮してください。

- 20 個の Cisco UCS ドメインを登録すると、1 年間統計データを保存するために必要な最小限のストレージ容量は 400 GB です。
- 100 個の Cisco UCS ドメインを登録すると、1 年間統計データを保存するために必要な最小限のストレージ容量は 2 TB です。

### クライアント システム

クライアントシステムに必要な最小メモリは、4 GB です。ただし、40 以上登録された Cisco UCS ドメインがある場合、クライアント システム上のメモリが少なくとも 8 GB あることを推奨します。

### クラスタのインストール

ハイ アベイラビリティを有効にし、クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする場合、スタンドアロンインストール用に指定されたすべての要件および次の共有ストレージを満たす必要があります。

- ESX の最小要件 : 40 GB
- Hyper-V の最小要件 : 40 GB

### Windows の NFS 要件

Windows NFS を使用してクラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする前に、Windows の変換ファイルを作成していることを確認します。



(注) 詳細については、「[How to Enable File Name Character Translation](#)」を参照してください。

### リモート ロケーションでの Cisco UCS ドメインの管理

リモートのブランチ オフィスなどのリモート ロケーションでの Cisco UCS ドメインの管理には、以下が Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central 間のネットワーク接続のための最小要件になります。

- 帯域幅 - 1.5 Mbps 以上
- 遅延 - 500 ミリ秒（ラウンド トリップ）以下

## Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件

Cisco UCS Central をインストールする前に、次の情報が必要です。

- Cisco UCS Central のスタティック IPv4 アドレス
- IPv4 ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- Cisco UCS Central 管理者アカウントに割り当てるパスワード。新しいパスワードを作成します。
- 仮想マシン（VM）のホスト名
- DNS サーバを使用する場合の DNS サーバの IPv4 アドレス
- DNS ドメインを使用する場合の Cisco UCS Central を追加する DNS ドメイン名
- 共有秘密。これは、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメイン を登録するときに必要なパスワードです。
- 共有ストレージ。これは、スタンドアロンインストールのための任意選択で、クラスタのインストールに必要です。



## 第 4 章

# Cisco UCS Central のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [インストールの概要, 21 ページ](#)
- [Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手, 22 ページ](#)
- [スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central インストール, 22 ページ](#)
- [クラスタモードでの Cisco UCS Central のインストール, 32 ページ](#)
- [データベース サーバ情報, 42 ページ](#)
- [スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central VM の復元, 42 ページ](#)
- [クラスタモードでの Cisco UCS Central VM の復元, 44 ページ](#)

## インストールの概要

Cisco UCS Central は、次のいずれかを使用してインストールできます。

- OVA ファイル



**重要** VMware では、すべての初期インストールに OVA ファイルを使用します。

- ISO イメージ

Cisco UCS Central リリース 1.1 以降では、スタンドアロンまたはクラスタ セットアップでインストールするオプションがあります。インストールする前に、Cisco.com からソフトウェアを取得してローカル ドライブに保存する必要があります。

# Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手

## はじめる前に

正常に Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードする準備ができたなら、Cisco.com のユーザ名とパスワードが正しいことを確認します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Web ブラウザで、[Cisco.com](https://cisco.com) を参照します。
- ステップ 2** [Support] で [All Downloads] をクリックします。
- ステップ 3** 中央のペインで、[Unified Computing and Servers] をクリックします。
- ステップ 4** 入力を求められたら、Cisco.com のユーザ名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 5** 右側のペインで、ダウンロードする形式の Cisco UCS Central ソフトウェアのリンクをクリックします。
- 次の形式で Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードできます。
- たとえば ucs-central.1.4.1a.ova などの名前の OVA ファイル
  - たとえば ucs-central.1.4.1a.iso などの名前の ISO ファイル
- また、管理者パスワードをリセットする ISO イメージもここでダウンロードできます。
- ステップ 6** ソフトウェアのダウンロードページで、リリースノートの最新バージョンをダウンロードするリンクをクリックします。
- ステップ 7** ダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェア リリースのリンクをクリックします。
- ステップ 8** 次のいずれかのボタンをクリックして、表示される指示に従います。
- [Download Now] : Cisco UCS Central ソフトウェアをすぐにダウンロードできます。
  - [Add to Cart] : 後でダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェアをカートに追加します。
- ステップ 9** プロンプトに従って、ソフトウェアのダウンロードを実行します。
- ステップ 10** Cisco UCS Central VM を配置する前にリリース ノートをお読みください。
- 

# スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central インストール

Cisco UCS Central は、スタンドアロン モードで OVA ファイルまたは ISO イメージのいずれかでインストールできます。



## VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルのインストール



- (注) Cisco UCS Central VM の初回起動時に 1 回に限り、インストール後の設定を実行します。ログインする前にインストールを完了してください。

### 手順

- ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。
- ステップ 2 VMware Virtual Center コンソールから、[File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
- ステップ 3 Cisco UCS Central VM をホストする ESX を選択して OVA ファイルを展開します。  
手順に従って VM を起動し、プロセスが 100% 完了するまで待ってから次の手順に進みます。
- ステップ 4 (任意) スタンドアロン インストールに共有ストレージを追加する場合は、共有ストレージを追加します。  
「[VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ](#)」を参照してください。
- ステップ 5 OVA ファイルのインポート時に VM の電源をオンにしていない場合は、Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 6 Cisco UCS Central VM のコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 7 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
  - a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで、**setup** と入力し、Enter キーを押します。
  - b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) をサポートしていません。
  - c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。
  - d) 「Enter the Default Gateway :」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - e) 「Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)」プロンプトで、**no** を選択し、Enter キーを押します。  
**yes** を選択すると、クラスターモードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスターモードでの Cisco UCS Central のセットアップの詳細については、[クラスターモードでの Cisco UCS Central のインストール](#)、(32 ページ) を参照してください。
  - f) 「Enter the UCS Central VM host name :」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。

- g) (任意) 「Enter the DNS Server IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。
- h) (任意) 「Enter the Default Domain Name :」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。  
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。
- i) 「Use Shared Storage Device for Database (yes/no)」プロンプトで、共有ストレージを設定する場合は、yes を入力し、設定しない場合は no を入力して Enter キーを押します。「[VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ](#)」を参照してください。
- j) 「Enforce Strong Password(Yes/No)」プロンプトで、強力なパスワードアラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。
- k) 「Enter the admin Password :」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。
- l) 「Confirm admin Password :」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。
- m) 「Enter the Shared Secret :」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- n) 「Confirm Shared Secret :」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- o) 「Do you want Statistics Collection (yes/no)」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先 [データベース サーバ情報](#), (42 ページ)
- p) 「Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するように求められます。

設定を続けることを確認した後で、ネットワーク インターフェイスは設定を再初期化し、Cisco UCS Central は IP アドレスでアクセスできるようになります。

## VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール



(注) VMware の場合、OVA ファイルからインストールすることを推奨します。ISO ファイルからのインストールには制限があります。詳細については、「<https://tools.cisco.com/bugsearch/bug/CSCuv32055>」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
設定 (Configuration)	カスタム設定
名前	Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前
仮想マシン タイプ	7 以降
ゲスト オペレーティング システム	Linux RHEL 5.0 (64 ビット) などのサポートされるオペレーティング システム
vCPU 数	4
メモリ	12GB 以上
仮想アダプタ	VM ネットワークを使用する 1 台の仮想アダプタ
SCSI コントローラ	LSI Logic Parallel
仮想ディスク	使用可能なディスク領域 40GB 以上 また、ステップ 2 で 2 番目の 40 GB 仮想ディスクを作成する必要があります。
詳細オプション	仮想デバイス ノードの SCSI
設定 - RDM Lun (スタンドアロン用のオプションの共有ストレージ) モード	物理互換性モードで 40 GB 以上。

- ステップ 2** [Edit Settings] で、スタンドアロン インストール用に 40 GB 以上の使用可能ディスク領域と、リモート ディスク クラスター インストール用にさらに 40 GB の使用可能ディスク領域を持つ新しい VM ハード ディスクを追加します。
- ステップ 3** [Options] メニューから、次を実行します。
- a) ブート オプションを変更するために、[Force BIOS Setup] を確認します。
  - b) [Power on Boot Delay] を指定します。
  - c) [Failed Boot Recovery] を確認します。
- ステップ 4** CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。
- ステップ 5** VM を起動し、コンソールに接続します。
- ステップ 6** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。
- Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量 (40 GB のディスク 2 個) があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。
- ステップ 7** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで、**setup** と入力し、Enter キーを押します。
  - b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) をサポートしていません。
  - c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。
  - d) 「Enter the Default Gateway :」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - e) 「Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)」プロンプトで、**no** を選択し、Enter キーを押します。  
yes を選択すると、クラスタ モードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタ モードでの Cisco UCS Central のセットアップの詳細については、[クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール](#)、(32 ページ) を参照してください。
  - f) 「Enter the UCS Central VM host name :」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。
  - g) (任意) 「Enter the DNS Server IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。
  - h) (任意) 「Enter the Default Domain Name :」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。

ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。

- i) 「Use Shared Storage Device for Database (yes/no)」プロンプトで、共有ストレージを設定する場合は、yes を入力し、設定しない場合は no を入力して Enter キーを押します。「[VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ](#)」を参照してください
- j) 「Enforce Strong Password(Yes/No)」プロンプトで、強力なパスワードアラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。
- k) 「Enter the admin Password :」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。
- l) 「Confirm admin Password :」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。
- m) 「Enter the Shared Secret :」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- n) 「Confirm Shared Secret :」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- o) 「Do you want Statistics Collection (yes/no)」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベースサーバの情報を指定するように求められます。参照先 [データベースサーバ情報](#)、(42 ページ)
- p) 「Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

**ステップ 8** 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

**ステップ 9** Cisco UCS Central VM を再起動します。

## Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール

### 手順

**ステップ 1** 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
名前	Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前

設定	推奨値
RAM	12GB 以上
ネットワーク アダプタ	デフォルト
vCPU 数	4
仮想ディスク	使用可能なディスク領域 40GB 以上 またステップ 3 で、IDE コントローラにおいて 2 番目の 40GB 仮想ディスクを作成する必要があります。
物理ハードディスクの設定（スタンドアロンモードのオプション）	40GB 以上。新しい SCSI コントローラを使用してマッピングされます。

**ステップ 2** VM の設定で、次の手順を実行します。

- a) デフォルトのネットワーク アダプタを削除します。
- b) 従来型のネットワーク アダプタを作成します。
- c) [Apply] をクリックします。

**ステップ 3** 最初の仮想ドライブと同じ IDE コントローラで、使用可能なディスク領域が 40 GB 以上ある VM の 2 番目の仮想ドライブを作成します。

**ステップ 4** [VM settings]>[Management]>[Integration Service] で、[Time synchronization] のチェックを外しディセーブルにします。

**ステップ 5** CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

**ステップ 6** VM を起動し、コンソールに接続します。

**ステップ 7** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。

Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量（40 GB のディスク 2 個）があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。

**ステップ 8** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。

- a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで、**setup** と入力し、Enter キーを押します。
- b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）をサポートしていません。

- c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。
- d) 「Enter the Default Gateway :」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
- e) 「Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)」プロンプトで、no を選択し、Enter キーを押します。  
yes を選択すると、クラスタモードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタモードでの Cisco UCS Central のセットアップの詳細については、[クラスタモードでの Cisco UCS Central のインストール](#)、(32 ページ) を参照してください。
- f) 「Enter the UCS Central VM host name :」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。
- g) (任意) 「Enter the DNS Server IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。
- h) (任意) 「Enter the Default Domain Name :」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。  
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルト ドメインを使用します。
- i) 「Use Shared Storage Device for Database (yes/no)」プロンプトで、共有ストレージを設定する場合は、yes を入力し、設定しない場合は no を入力して Enter キーを押します。「[VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ](#)」を参照してください
- j) 「Enforce Strong Password(Yes/No)」プロンプトで、強力なパスワードアラートを設定する場合は [yes] を選択して Enter キーを押します。
- k) 「Enter the admin Password :」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。
- l) 「Confirm admin Password :」プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。
- m) 「Enter the Shared Secret :」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- n) 「Confirm Shared Secret :」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- o) 「Do you want Statistics Collection (yes/no)」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベースサーバの情報を指定するように求められます。参照先 [データベースサーバ情報](#)、(42 ページ)
- p) 「Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するように求められます。

**ステップ 9** 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

**ステップ 10** Cisco UCS Central VM を再起動します。

## KVM ハイパーバイザへの Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール



(注) KVM ハイパーバイザで Cisco UCS Central をインストールすると、セットアップがグラフィックモードで実行されます。テキストモードでのインストールはサポートされません。

### 手順

**ステップ 1** 次の設定で VM を作成します。

設定	推奨値
名前	Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前
RAM	12GB 以上
ネットワーク アダプタ	デフォルト
vCPU 数	4
仮想ディスク	使用可能なディスク領域 40GB 以上 またステップ 3 で、IDE コントローラにおいて 2 番目の 40GB 仮想ディスクを作成する必要があります。

**ステップ 2** 最初の仮想ドライブと同じ IDE コントローラで、使用可能なディスク領域が 40 GB 以上ある VM の 2 番目の仮想ドライブを作成します。

**ステップ 3** CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

**ステップ 4** VM を起動し、コンソールに接続します。

**ステップ 5** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。

Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量 (40 GB のディスク 2 個) があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。



- ステップ 6** Cisco UCS Central VM がインストールプロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで、`setup` と入力し、Enter キーを押します。
  - b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) をサポートしていません。
  - c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。
  - d) 「Enter the Default Gateway :」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - e) 「Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)」プロンプトで、`no` を選択し、Enter キーを押します。  
`yes` を選択すると、クラスタ モードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタ モードでの Cisco UCS Central のセットアップの詳細については、[クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール](#)、(32 ページ) を参照してください。
  - f) 「Enter the UCS Central VM host name :」プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。
  - g) (任意) 「Enter the DNS Server IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。
  - h) (任意) 「Enter the Default Domain Name :」プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。  
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。  
Cisco UCS Central は、`localdomain` というデフォルト ドメインを使用します。
  - i) 「Use Shared Storage Device for Database (yes/no)」プロンプトで、`no` と入力し、Enter を押します。
  - j) 「Enforce Strong Password(Yes/No)」プロンプトで、強力なパスワードアラートを設定する場合は `[yes]` を選択して Enter キーを押します。
  - k) 「Enter the admin Password :」プロンプトで、`admin` アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。
  - l) 「Confirm admin Password :」プロンプトで、`admin` アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。
  - m) 「Enter the Shared Secret :」プロンプトで、1 つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
  - n) 「Confirm Shared Secret :」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
  - o) 「Do you want Statistics Collection (yes/no)」プロンプトで、`yes` と入力し、Enter キーを押します。

今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベース サーバの情報を指定するように求められます。参照先 [データベース サーバ情報](#)、(42 ページ)

- p) 「Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するように求められます。

**ステップ 7** 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

**ステップ 8** Cisco UCS Central VM を再起動します。

---

## クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール

可用性の高い構成で、Cisco UCS Central を 2 台の仮想マシンにインストールできます。クラスタモードでは、一方の VM がプライマリ ノードとして、他方がセカンダリ ノードとして機能します。このクラスタ設定では、VM で障害が発生した場合に冗長性およびハイ アベイラビリティを提供します。

クラスタ設定により、仮想マシンはデータベースおよびイメージリポジトリに LUN のディスクの共有ストレージを使用します。その結果、共有ストレージにファームウェア イメージをダウンロードします。レポートに使用される統計情報も、共有ストレージに収集および保存されます。

**重要**

クラスタ設定で Cisco UCS Central をインストールするときは、次のガイドラインに注意してください。

- クラスタ内の 2 つの VM は、同じサーバ上には存在しません。両方の VM が同じサーバ上にある場合は、1 つのホストの障害によってクラスタがダウンします。
- ホストは両方とも、同じバージョンの ESX、HyperV または KVM がインストールされている必要があります。
- 共有ストレージを設定するには、両方のホストが同じ LUN を共有する必要があります。
- VM は、両方とも同じサブネット上にある必要があります。
- 両方の VM に Cisco UCS Central の同じリリース バージョンをインストールする必要があります。
- 最初のノードを完全にインストールし、それから 2 番目のノードをインストールする必要があります。同時にインストールすると、パーティションテーブルが破損または上書きされ、共有ストレージの導入済みデータがすべて失われる可能性があります。
- クラスタ設定では、Cisco UCS Central はマルチパスではなく単一のパスを持つ RDM のみをサポートします。

### クラスタ モードの共有ストレージの設定

Cisco UCS Central がクラスタ モードで十分に動作するために、業界のベストプラクティスに従って共有ストレージを設定および接続してください。次のガイドラインに注意してください。

- 共有ストレージへすばやくアクセスするために、高速の SAN 接続を設定します。
- 共有 LUN を設定するためにパフォーマンスの優れた RAID タイプを選択します。
- ストレージに十分な領域、適切なページサイズおよびウォーターマーク設定があり、書き込みキャッシュが有効であることを確認します。たとえば、EMC ストレージアレイがある場合、次のキャッシュ設定が必要です。
  - ページサイズ : 8 KB
  - 低水準値 : 60%
  - 高水準値 : 80%

**重要**

- 共有ストレージへのパスは1つしか持てません。マルチパスはサポートされません。Cisco UCS Central VM に共有ストレージを追加するときにパスが複数ある場合、その他すべてのパスを無効にする必要があります。その他のパスを無効にするには、
  - [Edit VM Settings] をクリックし、共有ストレージを選択し、[Manage Paths] をクリックします。
  - すべての追加パスを右クリックし、[Disable] をクリックします。
- ノード B に共有ストレージを追加するときは、必ず ESX ホストに直接接続してください。RDM としてディスクを追加する必要があります。
- クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする場合は、NFS 共有ストレージに基づく高可用性のみを使用する必要があります。KVM ハイパーバイザでは、RDM 共有ストレージはサポートされません。

## 共有ストレージの NFS サーバのセットアップ

NFS サーバには、Cisco UCS Central のさまざまなアプリケーションによって使用されるデータベースとイメージが保存されます。NFS サーバの初期設定に、しばらく時間がかかる場合があります。タイムアウト メッセージが終了するまで待機してください。

**重要**

NFS サーバは、できるだけ Cisco UCS Central VM の近くに配置する必要があります。NFS サーバを Cisco UCS Central と同じサブネット上に配置することを推奨します。

### はじめる前に

- ディレクトリを作成する NFS サーバに 40 GB 以上の使用可能領域があることを確認します。
- NFS サーバの IP アドレスを取得します。
- 最適なシステムパフォーマンスを確保するために、ネットワーク遅延が 0.5 ms 未満であることを確認します。

### 手順

- ステップ 1** 40 GB 以上があるパーティションまたはボリュームを作成します。
- ステップ 2** NFS ディレクトリをエクスポートします。  
エディタを使用してファイル `/etc/exports` を開き、NFS ディレクトリをエクスポートします。

例：

/nfs \*(rw, sync, no\_root\_squash)。ここで、/nfs はエクスポートする必要のあるディレクトリです。オプション `rw` と `no_root_squash` を指定して、ディレクトリをエクスポートする必要があります。

**ステップ 3** NFS サービスを再起動します。

例：

```
/sbin/service nfs restart
```

**ステップ 4** Cisco UCS Central VM からの NFS サーバディレクトリのマウントを妨げる可能性のあるファイアウォール ルールが NFS サーバ上にあれば、それを削除します。

---

## NFS サーバまたはディレクトリの変更

次のコマンドを使用して、既存の NFS サーバまたは NFS 共有ストレージディレクトリを編集および変更できます。

- 既存の NFS サーバを新しいサーバに変更する：`edit-nfsIP Address for the new NFS server NFS shared directory name`
- 同じサーバの共有ディレクトリを変更する：`edit-nfsNFS IP Address New NFS shared directory name`

## RDM 共有ストレージから NFS 共有ストレージへの変更

Cisco UCS Central CLI を使用して RDM から NFS に共有ストレージを変更できます。必ずプライマリ ノードの NFS サーバに変更してください。セカンダリ ノードを別個に変更する必要はありません。

### 手順

---

**ステップ 1** UCSC # **connect local-mgmt**  
ローカル管理に接続します。

**ステップ 2** UCSC (local-mgmt) # **switch-to-nfsNFS IP AddressShared Storage Directory**  
NFS の IP アドレスを使用して NFS ディレクトリに切替え、ディレクトリを変更します。

---

### 次の作業

このメッセージの後、システムにログインし、**showstorage-device** と入力してストレージデバイスが変更されていることを確認します。

## Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ



### 重要

共有ストレージへのパスは 1 つしか持てません。マルチパスはサポートされません。

Cisco UCS Central VM に共有ストレージを追加するときにパスが複数ある場合、その他すべてのパスを無効にする必要があります。その他のパスを無効にするには、

- 1 [Edit VM Settings] をクリックし、共有ストレージを選択し、[Manage Paths] をクリックします。
- 2 その他のすべてのパスを右クリックし、[Disable] をクリックします。

### 手順

- ステップ 1** ストレージアレイで 40 GB 以上の LUN を作成し、ノード A をインストールした Hyper-V ホストに割り当てます。  
ディスクはオフラインモードである必要があります。
- ステップ 2** 新しい SCSI コントローラを使用する「物理ハードディスク」として VM にディスクを追加します。
- ステップ 3** Powershell コマンド ウィンドウで、Set-ExecutionPolicy unrestricted コマンドを実行します。
- ステップ 4** SCSI-3 PGR を機能させるには、SCSI フィルタリングをディセーブル化する必要があります。このディスクの SCSI フィルタリングをディセーブル化するには、パラメータとして仮想マシンの名前を使用して、両方の Hyper-V マシンで次のスクリプトを保存および実行します。

ナレーション：

```
$HyperVGuest = $args[0]
$VMManagementService = gwmi Msvm_VirtualSystemManagementService -namespace
"root\virtualization"
foreach ($Vm in gwmi Msvm_ComputerSystem -namespace "root\virtualization" -Filter
"elementName='$HyperVGuest'")
{
$SettingData = gwmi -Namespace "root\virtualization" -Query "Associators of {$Vm} Where
ResultClass=Msvm_VirtualSystemGlobalSettingData AssocClass=Msvm_ElementSettingData"
$SettingData.AllowFullSCSICommandSet = $true
$VMManagementService.ModifyVirtualSystem($Vm,$SettingData.PSBase.GetText(1)) | out-null
}
```

例：

Hyper-V ホストにスクリプトを格納し（たとえば c:\ など）、ノード A の名前が UCSC-Node-1 でファイル名が DisableSCSIFiltering.ps1 の場合は、[Powershell] ウィンドウを開き、スクリプト C:\> .\DisableSCSIFiltering.ps1 UCSC-Node-1 を実行します。

**重要** 正しい VM 名の両方の Hyper-V マシン上でこのスクリプトを実行する必要があります。

- Hyper-Vに共有ストレージが追加されました。共有ストレージを設定するには、次を実行します。
- ステップ 5** ノード A に追加した LUN を、ノード B をインストールした Hyper-V ホストにマップします。これで、両方の Hyper-V ホストが同じ LUN を表示できるようになります。
- ステップ 6** ノード B にこの LUN を追加します。



(注) クラスタセットアップでは、RDMリンクがプライマリノード上でダウンすると、DMEがデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリノード上で読み書きモードでマウントされます。RDMリンクがダウンしているため、古いプライマリノードでアンマウントが失敗します。RDMリンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ（現在の下位）ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。

回避策として、現在の下位ノードで **pmon** サービスを再起動するか、ノード自体を再起動することができます。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。

## VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ



**重要** 共有ストレージへのパスは 1 つしか持てません。マルチパスはサポートされません。

Cisco UCS Central VM に共有ストレージを追加するときにパスが複数ある場合、その他すべてのパスを無効にする必要があります。その他のパスを無効にするには、

- 1 [Edit VM Settings] をクリックし、共有ストレージを選択し、[Manage Paths] をクリックします。
- 2 その他のすべてのパスを右クリックし、[Disable] をクリックします。

### 手順

- ステップ 1** ストレージアレイで 40 GB 以上の LUN を作成し、ノード A をインストールした ESXi ホストに割り当てます。
- ステップ 2** 物理互換モードで Raw Device Mapping として VM にストレージアレイを追加します。すべてのデフォルトのオプションを選択してください。
- ステップ 3** Raw Device Mapping のハードディスクのパス選択ポリシーを固定 (VMware) に変更します。

これで VMware に共有ストレージが追加されました。共有ストレージを設定するには、次のことを実行します。

- ステップ 4** ノード A に追加した LUN を、ノード B をインストールした ESXi ホストにマップします。これで、両方の ESXi ホストが同じ LUN を表示できるようになります。
- ステップ 5** この ESXi ホストに、それぞれ別の VSphere クライアント セッションを開きます。vCenter Server を使用して VM を追加しないでください。追加した場合、LUN マッピングの競合を拒否します。
- ステップ 6** 物理互換モードで Raw Device Mapping として VM に追加します。すべてのデフォルトのオプションを選択してください。
- ステップ 7** Raw Device Mapping のパス選択ポリシーを Fixed VMware に変更します。



(注) クラスタセットアップでは、RDM リンクがプライマリ ノード上でダウンすると、DME がデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリ ノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリ ノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリ ノード上で読み書きモードでマウントされます。RDM リンクがダウンしているため、古いプライマリ ノードでアンマウントが失敗します。RDM リンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ (現在の下位) ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。

回避策として、現在の下位ノードで pmon サービスを再起動するか、ノード自体を再起動することができます。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。

## ノード A への Cisco UCS Central のインストール

はじめる前に



(注) Cisco UCS Central VM では、初回起動時に 1 回限りのインストールプロセスを実行します。ログインする前にインストールを完了してください。

次の情報について確認してください。

- ホスト名、IP アドレス、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバと DNS ドメイン名といったネットワーク データ
- 新しいクラスタをセット アップするかどうか
- 管理者のユーザ名とパスワード
- クラスタ ノード間および Cisco UCS Manager との通信のための共有秘密



- ピア Cisco UCS Central ノードの IP アドレス
- 仮想 IP アドレス

## 手順

- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。  
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** 共有ストレージを追加します。VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ、(37 ページ) または Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ、(36 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで **setup** と入力し、Enter キーを押します。
  - b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
  - c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - d) 「Enter the VM IPv4 Default Gateway」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - e) 「Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)」プロンプトで、**yes** と入力して Enter キーを押します。
  - f) 「Is this VM part of a new cluster(select 'no' to add to an existing cluster) (yes/no)」プロンプトで、**yes** と入力して Enter キーを押します。
  - g) 「Enter the UCS Central VM Hostname」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられたホスト名を入力し、Enter キーを押します。
  - h) 「Enter the DNS Server IPv4 Address」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用される DNS サーバの IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
  - i) 「Enter the Default Domain Name」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ドメイン名を入力し、Enter キーを押します。
  - j) 「Use RDM or NFS for shared storage[rdm/nfs]」プロンプトで、rdm または nfs と入力し、Enter キーを押します
- 重要** KVM ハイパーバイザは NFS 共有ストレージのみをサポートします。KVM ハイパーバイザでは、RDM 共有ストレージはサポートされません。

- k) `rdm` と入力した場合、「Enter the Shared Storage Device from the above list (enter serial no.)」プロンプトで、共有ストレージデバイスのシリアル番号を入力し、Enter キーを押します。
- l) `nfs` と入力した場合、「Enter the NFS IPv4 Address」プロンプトで NFS IPv4 アドレスを入力し、Enter を押します。
- m) `nfs` と入力した場合、「Enter the NFS Direcotry」プロンプトで NFS ディレクトリを入力し、Enter を押します。
- n) 「Enforce Strong Password (yes/no)」プロンプトで、`no` と入力し、Enter キーを押します。
- o) 「Enter the admin Password」プロンプトで、管理者パスワードを入力し、Enter キーを押します。
- p) 「Confirm the admin Password」プロンプトで、もう一度 `admin` パスワードを入力し、Enter キーを押します。
- q) 「Enter the Shared Secret」プロンプトで、共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- r) 「Confirm Shared Secret」プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- s) 「Enter the Peer UCS Central Node IPv4 Address」プロンプトで、ピア UCS central ノードの IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
- t) 「Enter the Virtual IPv4 Address」プロンプトで、Cisco UCS Central に使用される仮想 IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
- u) 「Do you want Statistics Collection (yes/no)」プロンプトで、`yes` と入力し、Enter キーを押します。  
今は統計情報収集を有効にしない場合は、`no` と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。`yes` と入力した場合は、データベースサーバの情報を指定するように求められます。参照先 [データベースサーバ情報](#), (42 ページ)
- v) 「Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no)」プロンプトで、`yes` と入力して Enter キーを押して、システムのインストールを開始します。

## ノード B への Cisco UCS Central のインストール

### はじめる前に

次の情報について確認してください。

- UCS Central IPv4 アドレス、IPv4 ネットマスクおよび IPv4 デフォルト ゲートウェイ
- IP アドレス、ピア ノードの管理者ユーザ名およびパスワード

## 手順

- 
- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。  
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** 共有ストレージをセットアップします。VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ、(37 ページ) または Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ、(36 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで `setup` と入力し、Enter キーを押します。
  - b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
  - c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - d) 「Enter the VM IPv4 Default Gateway」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - e) 「Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no)」プロンプトで、`yes` と入力して Enter キーを押します。
  - f) 「Is this VM part of a new cluster(select 'no' to add to a new cluster) (yes/no)」プロンプトで、`no` を入力し、Enter キーを押します。
  - g) 「Enter the Peer UCS Central Node IPv4 Address」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
  - h) 「Enter the admin Username on Peer Node」プロンプトで、ピア ノードの admin ユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
  - i) 「Enter the admin Password on Peer Node」プロンプトで、ピア ノードの admin パスワードを入力し、Enter キーを押します。
  - j) 「Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no)」プロンプトで、`yes` と入力して Enter キーを押して、システムの再起動を開始します。
-

## データベース サーバ情報

インストール中に、統計情報収集を有効にするかどうかの質問で [Yes] と回答した場合、Cisco UCS Central のインストール中にデータベースの詳細を指定する必要があります。

- D : デフォルト（内部 Postgres データベース）。Cisco UCS Central に 5 つ以上 Cisco UCS ドメイン がある場合、内部データベースは推奨されません。
- P : Postgre
- O : Oracle
- M : Microsoft SQL Server

外部データベース オプションのいずれかに P または O を選択した場合、次のデータベース情報があることを確認してください。

- タイプ : Oracle、PostgreSQL、および MSSQL は、サポートされているオプションです。
- サーバ名または IP アドレス : Cisco UCS Central からアクセス可能である必要があります。
- ポート : データベース サーバにアクセスするためのカスタム DB のポートを設定できます。このポートを介して Cisco UCS Central のデータベース サーバへのアクセスをイネーブルにするために、ファイアウォール設定でこのポートをイネーブルにする必要があります。
  - Oracle のデフォルト ポート : 1521
  - PostgreSQL のデフォルト ポート : 5432
  - MSSQL のデフォルト ポート : 1433
 ポート情報については、データベース管理者に確認してください。
- 名前 : 統計データを格納するデータベースの名前。
- ユーザ名 : データベースの作成、削除、読み取りおよび書き込み管理者特権を持つユーザ。
- パスワード : 統計情報収集が DB パスワードの期限切れによって中断されないために、パスワードの有効期限をなしまたは 1 年に設定することを推奨します。

## スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central VM の復元

Cisco UCS Central リリース 1.0 から完全な状態のバックアップを復元する場合は、Cisco UCS Central リリース 1.1 の OVA ファイルを使用できません。



(注) この手順では、OVA ファイルを使用して復元するプロセスについて説明します。

## はじめる前に

Cisco UCS Central VM の設定を復元するには、使用する Cisco UCS Central システムから拡張子 .tgz のバックアップ ファイルを取得する必要があります。Cisco UCS Central システムのバックアップ方法については、『[Cisco UCS Central のユーザ マニュアル](#)』および『[CLI リファレンス マニュアル](#)』の「バックアップと復元の管理」を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。  
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** まだ OVA ファイルのインポート作業を実行していない場合、Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで、**restore** と入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask :」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the Default Gateway :」プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the File copy protocol[tftp/scp/ftp/sftp] :」プロンプトで、Cisco UCS Central VM へバックアップ ファイルをコピーするために使用するサポート対象プロトコルを入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the Backup server IPv4 Address :」プロンプトで、バックアップ ファイルを保存するサーバに割り当てられる IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the Backup file path and name :」プロンプトで、サーバ上のバックアップ ファイルの完全なファイルパスと名前を入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Enter the Username to be used for backup file transfer :」プロンプトで、システムがリモート サーバにログインするために使用するユーザ名を入力し、**Enter** キーを押します。
  - (任意) 「Enter the Password to be used for backup file transfer :」プロンプトで、リモートサーバのユーザ名に使用するパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
  - 「Proceed with this configuration.Please confirm[yes/no]」プロンプトで、**yes** と入力し、**Enter** キーを押します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、**no** と入力し、**Enter** キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

設定を続けることを確認した後で、ネットワーク インターフェイスは設定を再初期化し、Cisco UCS Central は IP アドレスでアクセスできるようになります。

### 次の作業

Cisco UCS Central が復元された後、Cisco UCS Central にログインし、イメージライブラリにファームウェア イメージをダウンロードします。いずれかのファームウェア イメージがサービス プロファイルで参照されている場合は、中断状態から Cisco UCS ドメインを再認識する前に、イメージがダウンロードされ、イメージライブラリで使えることを確認しておく必要があります。

## クラスタ モードでの Cisco UCS Central VM の復元

デフォルトでは、復元された VM はノード A に設定されます。これが新しいクラスタの場合、ノード B をインストールしてクラスタ モードに追加する必要があります。



(注) 完全な復元を開始する前に、別の NFS 共有ディレクトリを使用するか、または以前使用した NFS 共有ディレクトリを完全にクリーンアップすることを推奨します。

### はじめる前に

Cisco UCS Central VM の設定を復元するには、使用する Cisco UCS Central システムから拡張子 .tgz のバックアップ ファイルを取得する必要があります。Cisco UCS Central システムのバックアップ方法については、『[Cisco UCS Central のユーザ マニュアル](#)』および『[CLI リファレンス マニュアル](#)』の「バックアップと復元の管理」を参照してください。

クラスタ セットアップを復元する場合、復元を開始する前に共有ストレージをマッピングします。

### 手順

- ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。
- ステップ 2 ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。  
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。

- ステップ 3** 共有ストレージを追加します。VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ、(37 ページ) または Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ、(36 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM がインストールプロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- a) 「Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore]」プロンプトで `restore` と入力し、Enter キーを押します。
  - b) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address」プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
  - c) 「Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - d) 「Enter the VM IPv4 Default Gateway」プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
  - e) 「Enter File copy protocol[tftp/scp/ftp/sftp]:」プロンプトで、Cisco UCS Central VM へバックアップファイルをコピーするために使用するサポート対象プロトコルを入力し、Enter キーを押します。
  - f) 「Enter the Backup server IPv4 Address :」プロンプトで、バックアップファイルを保存するサーバに割り当てられる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
  - g) 「Enter the Backup file path and name :」プロンプトで、サーバ上のバックアップファイルの完全なファイルパスと名前を入力し、Enter キーを押します。
  - h) 「Enter the Username to be used for backup file transfer :」プロンプトで、システムがリモートサーバにログインするために使用するユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
  - i) (任意) 「Enter the Password to be used for backup file transfer :」プロンプトで、リモートサーバのユーザ名に使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。
  - j) 「Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no)」プロンプトで、`yes` と入力して Enter キーを押して、システムのインストールを開始します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、`no` と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。設定を続行することを確認した後、メッセージが表示されます。  
  
The Shared Storage Device (Lun ID as present in the backup file) was not detected on this system.
  - k) 「Enter Shared Storage Device from the above list (enter serial no)」プロンプトで、設定する共有ストレージ デバイスのシリアル番号を入力し、Enter キーを押します。  
(注) この共有ストレージ デバイス (LUN) は求められるストレージと異なる場合があります。そのデバイスは、新しいストレージを再設定して新しいセットアップのコンフィギュレーション ファイルを更新します。
  - l) (オプション) 「Shared Storage device (lun id) will be formatted as part of the restore operation and any existing data will be wiped out.Do you want to proceed[y/n]?」プロンプトで、`[yes]` を押します。

ネットワーク インターフェイスは、バックアップ ファイルの IP 詳細で再初期化し、共有ストレージがデータベース用に設定され、Cisco UCS Central が IP アドレスでアクセスできるようになります。

---

### 次の作業

同じ共有ストレージデバイスをノード B にマップし、クラスタ用のノード B を設定します。参照先 [ノード B への Cisco UCS Central のインストール](#)、(40 ページ)





## 第 5 章

# ログインおよび設定

この章は、次の項で構成されています。

- [ログインおよび設定の概要, 47 ページ](#)
- [admin パスワードのリセット, 49 ページ](#)
- [パスワードと共有秘密のガイドライン, 49 ページ](#)
- [共有秘密のリセット, 50 ページ](#)

## ログインおよび設定の概要

Cisco UCS Central GUI および Cisco UCS Central CLI の両方を使用して、Cisco UCS Central にログインできます。両方のインターフェイスを使用すると、いくつかの例外を除いて、ほとんどすべての Cisco UCS Central 操作が実行できます。

Cisco UCS Central GUI にアクセスするには、HTTP および HTTPS の両方のプロトコルを使用できます。

一部の機能へのアクセスには、必要な権限を持っている必要があります。詳細については、『[Cisco UCS Central コンフィギュレーション ガイド](#)』を参照してください。

## Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central GUI へログインするためのデフォルトの HTTP ポートおよび HTTPS Web リンクは次のとおりです。

- **HTTP** : Cisco UCS Central GUI のデフォルト HTTP Web リンクは `http://UCSCentral_IP` です。HTML5 UI を使用する場合、パスは `http://UCSCentral_IP/ui` です。
- **HTTPS** : Cisco UCS Central GUI のデフォルト HTTPS Web リンクは `https://UCSCentral_IP` です。HTML5 UI を使用する場合、パスは `https://UCSCentral_IP/ui` です。



(注) `UCSCentral_IP` は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。クラスタ設定の場合、この IP アドレスは仮想 IP アドレスで、特定のノードに対して 1 つではありません。

### 手順

- ステップ 1** Web ブラウザで、Cisco UCS Central GUI Web リンクを入力するか、ブラウザでブックマークを選択します。
- ステップ 2** 起動ページで、次の作業を行います。
- ユーザ名およびパスワードを入力します。
  - [Log In] をクリックします。

### 次の作業

#### ログアウト

Cisco UCS Central GUI でタスクを完了した後に、右上隅にある [Log Out] をクリックします。Cisco UCS Central GUI はただちにログアウトし、ブラウザの起動ページに戻ります。

## Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central CLI へのアクセスに SSH または Telnet クライアントを使用します。

Cisco UCS Central CLI へログインするためのデフォルト アドレスは `UCSCentral_IP` です。



(注) `UCSCentral_IP` は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。クラスタ設定の場合、この IP アドレスは仮想 IP アドレスで、特定のノードに対して 1 つではありません。

### 手順

- ステップ 1** SSH クライアントから、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスに接続します。
- ステップ 2** `log in as:` プロンプトで Cisco UCS Central のユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
- ステップ 3** `Password:` プロンプトで Cisco UCS Central のパスワードを入力し、Enter キーを押します。

### 次の作業

#### ログアウト

Cisco UCS Central CLI でタスクを完了した後に、`exit` と入力し、`Enter` キーを押します。ウィンドウを閉じるまで、`exit` と入力して `Enter` を押します。



(注) Cisco UCS Central CLI を終了すると、すべてのコミットされていないトランザクションのパッファがクリアされます。

## admin パスワードのリセット

最初に Cisco UCS Central ソフトウェアをインストールした時にお使いのアカウント用に作成した管理者パスワードを紛失した場合は、管理者固有の作業を実行する前に、パスワードをリセットします。Cisco.com からソフトウェアを入手するときに、パスワードリセットイメージを取得していることを確認します。そうでない場合でも、パスワードリセットイメージをいつでも取得できます。パスワードリセットイメージ名の例: `ucs-central-passreset.1.4.1a.iso`



(注) クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールした場合、両方の VM を再起動し、それぞれの VM に個別に ISO をマウントし、両方の VM に同じパスワードをリセットします。

### 手順

- ステップ 1 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。
- ステップ 2 Password Reset ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。
- ステップ 3 [UCS Central Admin Password Reset] ページで、次の手順を実行します
  - a) [Admin Password] フィールドに、新しい admin パスワードを入力します。
  - b) [Confirm Admin Password] フィールドに、もう一度新しい admin パスワードを入力します。
  - c) [Next] をクリックします。
- ステップ 4 パスワード変更が完了した後、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

## パスワードと共有秘密のガイドライン

シスコでは、各 Cisco UCS Central ユーザに強力なパスワードを設定することを推奨します。パスワードは Cisco UCS Central でローカルで認証されたユーザアカウントをそれぞれ作成する場合に必要です。admin、aaa、または domain-group-management 権限をもつユーザは、ユーザパスワードについてパスワード強度のチェックを実行するために Cisco UCS Central を設定できます。作成するパスワードは、一義的である必要があります。

パスワード強度チェックをイネーブルにすると、各ユーザが強力なパスワードを使用する必要があります。Cisco UCS Central では、次の要件を満たさないパスワードや共有秘密は拒否されます。

- 8 ～ 80 文字を含む。
- 次の少なくとも 3 種類を含む。
  - 大文字
  - 小文字
  - 数字
  - 特殊文字
- 3 回以上連続して繰り返される文字を含めることはできません。例：aaabbb111@@@
- ユーザ名またはユーザ名を逆にしたものではない。
- パスワードディクショナリ チェックに合格する。たとえば、パスワードには辞書に記載されている標準的な単語に基づいたものを指定することはできません。
- 次の記号を含まない。\$（ドル記号）、?（疑問符）、=（等号）。
- ローカル ユーザおよび管理ユーザの場合は空白にしない。
- 強力なパスワードを作成する場合は、パスワードにいかなる順序でも 3 文字の連続した文字または数字を含めることはできません。

## 共有秘密のリセット

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCSC # <b>connect local-mgmt</b>	ローカル管理モードを開始します。
ステップ 2	UCSC (local-mgmt) # <b>set shared-secret</b>	新しい共有秘密を設定します。
ステップ 3	プロンプトに、新しい共有秘密を入力します。	

次の例は、Cisco UCS Central の共有秘密をリセットする方法を示しています。

```
UCSC # connect local-mgmt
UCSC (local-mgmt) # set shared-secret
Enter Shared Secret: passW0rd2
```

### 次の作業

Cisco UCS Central で共有秘密をリセットする場合は、登録済みの各 Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager で共有秘密を更新する必要があります。



重要

Cisco UCS ドメインを登録解除しないでください。

## Cisco UCS Manager での共有秘密のリセット

Cisco UCS Central で共有秘密をリセットする場合は、登録済みの各 Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Manager で共有秘密を更新する必要があります。



重要

Cisco UCS ドメインを登録解除しないでください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	登録されたドメインの Cisco UCS Manager CLI にログインします。	
ステップ 2	UCS-A# <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /system # <b>scope control-ep policy</b>	control-ep ポリシー モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /system/control-ep # <b>set shared-secret</b>	Cisco UCS Central の新しい共有秘密と一致する共有秘密（またはパスワード）を入力します。
ステップ 5	UCS-A /system/control-ep # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次の例は、Cisco UCS Manager の共有秘密を更新する方法を示します。

```
UCS-A # scope system
UCS-A /system # scope control-ep policy
UCS-A /system/control-ep # set shared-secret
Shared Secret for Registration: passWOrd2
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```





## 第 6 章

# Cisco UCS Central のアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Central のリリース 1.3 へのアップグレード, 53 ページ](#)

## Cisco UCS Central のリリース 1.3 へのアップグレード

スタンドアロン モードまたはクラスタ モードのいずれかで Cisco UCS Central リリース 1.1(2a) または 1.2 を 1.3 にアップグレードできます。すでにスタンドアロン モードのインストールを使用している場合でも、リリース 1.3 にアップグレードする際に、クラスタ モードで環境を設定できます。クラスタセットアップをアップグレードする場合は、[を参照してください。クラスタモードでの Cisco UCS Central のアップグレード, \(57 ページ\)](#)

ご使用のシステムが Cisco UCS Central リリース 1.3 のシステム要件を満たしていることを確認します。[システム要件, \(17 ページ\)](#) を参照してください。



### 重要

- Cisco UCS Central リリース 1.3 では、最低 12 GB の RAM および 40 GB のストレージが必要です。VM の RAM がこの要件を満たし、disk1 のサイズが 40 GB にアップグレードされていることを確認します。そうしない場合、アップグレードは失敗します。
- Cisco UCS Central のアップグレードには ISO イメージを使用します。
- アップグレード後、Cisco UCS Central の GUI にログインする前に、ブラウザ キャッシュをクリアしてください。

**注意**

Cisco UCS Central リリース 1.3 は、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2)、2.1(3)、2.2(x)、2.5(x)MS、および 3.0(x) をサポートします。Cisco UCS Central をアップグレードする前に、まず Cisco UCS Manager をサポートされているリリースバージョンのいずれかにアップグレードする必要があります。最初に Cisco UCS Manager をアップグレードしないと、Cisco UCS Central はバージョンの不一致についてエラーを生成し、登録された Cisco UCS ドメインはすべて、Cisco UCS Central からのアップデートの受信を停止します。

**サポートされるリリース 1.3 へのアップグレードパス**

Cisco UCS Central のリリース 1.3(1a) へのアップグレードは、次の 2 つのリリースのいずれかからのみ可能です。

- 1.1(2a) から 1.3(1a) へ
- 1.2 から 1.3(1a) へ





---

**重要**

- Cisco UCS Central を 1.3 にアップグレードする前に、次のことを実行する必要があります。
    - Cisco UCS Manager が 2.1(2) 以降であることを確認します。完全な機能サポートを保証するために、Cisco UCS Manager を最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。
    - Cisco UCS Central 1.0 を、サポートされる 1.1 パッチ リリースの Cisco UCS Central にアップグレードします。
    - アップグレードプロセスを開始する前に、完全状態のバックアップが取られていることを確認します。
  - リリース 1.0 から 1.1 へのアップグレードでは、ISO アップグレードのみがサポートされています。ISO アップグレードは、リリース 1.1 からすべての新しいリリースにアップグレードする際の推奨されるアップグレード方法です。
  - 障害の発生時に環境を再作成できるように、バックアップと復元のオプションを使用することができます。アップグレードをするために、バックアップと復元を使用することは推奨されていません。以下は、バックアップと復元の推奨されるベストプラクティスです。
    - Cisco UCS Central VM が失われたというディザスタ リカバリ シナリオでは、完全状態のバックアップを使用します。
    - 既存の Cisco UCS Central VM のバックアップ ファイルから設定をインポートするため、設定のインポートを使用します。
    - 完全状態のバックアップでは、Cisco UCS Central でダウンロードされたファームウェア イメージはバックアップされません。新しい Cisco UCS Central VM を展開するとき、また完全状態のバックアップから復元するときは、Cisco UCS Central でもう一度ファームウェア イメージをダウンロードしてください。完全状態の復元を行った後、一時停止モードから Cisco UCS ドメインを認識する前に、ファームウェア イメージをダウンロードする必要があります。
  - 次のオプションは、1.3(1a) ではサポートされていません。
    - samdb 設定インポートの消去。
    - Cisco UCS Central リリース 1.0 および 1.1(1a) からのアップグレード。
    - Cisco UCS Central リリース 1.3 を復元するための、Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1(1a) からの完全状態のバックアップ。
    - Cisco UCS Central リリース 1.3 から設定をインポートするための、Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1(1a) からの設定のエクスポート。
    - Cisco UCS Central リリース 1.3 から Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1 へのダウングレード。
-

## スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central のアップグレード

現在動作しているの RHEL カーネルのバージョンおよびすべての Cisco UCS Central コンポーネントのアップグレード手順は、次の通りです。この手順ではすべての Cisco UCS Central データが保持されます。

### はじめる前に

Cisco UCS Central リリース 1.4 の ISO イメージを取得しておく必要があります。[Cisco.com](#) からの [Cisco UCS Central ソフトウェアの入手](#), (22 ページ) を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

### 手順

- 
- |               |  |
|---------------|--|
| <b>ステップ 1</b> | 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。  |
| <b>ステップ 2</b> | Cisco UCS Central ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。   |
| <b>ステップ 3</b> | ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。 |
| <b>ステップ 4</b> | アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。                             |
| <b>ステップ 5</b> | Cisco UCS Central VM を再起動します。  |
- 

## クラスタ モードでの Cisco UCS Central のアップグレード



### 重要

- クラスタの両方のノードで ISO のアップグレードを完了する必要があります。任意の順序で両方のノードのアップグレードを実行できます。クラスタ設定は、両方のノードが同じリリースバージョンの Cisco UCS Central を実行している場合にのみ使用できます。
- クラスタのノード A およびノード B の両方で次の手順 1～5 を確実に実行してください。

### はじめる前に

このリリースの Cisco UCS Central ISO イメージを入手しておく必要があります。[Cisco.com](#) からの [Cisco UCS Central ソフトウェアの入手](#), (22 ページ) を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。必ず共有ストレージの接続性を確保してください。

## 手順

- ステップ 1** ノード A または B の UCS Central VM をシャットダウンし、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。
- ステップ 2** 仮想 CD/DVD ドライブで Cisco UCS Central ISO イメージの電源を入れてマウントします。
- ステップ 3** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。
- ステップ 4** アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM を再起動します。
- ステップ 6** もう一方のノードで、手順 1 ～ 6 を繰り返します。
- ステップ 7** 両方のノードをアップグレードしたら、HA 選択が完了するまで待機し、いずれかのノードでクラスタ状態を確認します。

```
UCSC-A# show cluster state
Cluster Id: 0xYYYYYY
A: UP, PRIMARY
B: UP, SUBORDINATE
HA READY/HA NOT READY
```

ノードのどちらかがプライマリとして選択され、残りがセカンダリとなります。

Cisco UCS ドメインの登録状況と可用性によっては、HA ステータスがアップグレード前の状態と同じままになります。



(注)

クラスタセットアップでは、RDM リンクがプライマリ ノード上でダウンすると、DME がデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリ ノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリ ノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリ ノード上で読み書きモードでマウントされます。RDM リンクがダウンしているため、古いプライマリ ノードでアンマウントが失敗します。RDM リンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ (現在の下位) ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。

回避策として、現在の下位ノードで **pmon** サービスを再起動するか、ノード自体を再起動することができます。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。

## スタンダロンモードからクラスタモードへ Cisco UCS Central を変更

### はじめる前に

この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

ISO イメージを使用して、Cisco UCS Central 1.0 から 1.1 へアップグレードします。参照先 [スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central のアップグレード](#), (57 ページ)

## 手順

- 
- ステップ 1** VM を停止します。
- ステップ 2** VM に共有ストレージを追加します。 [Hyper-V の RDM 共有ストレージの追加とセットアップ](#), (36 ページ) または [VMware での RDM 共有ストレージの追加およびセットアップ](#), (37 ページ) を参照してください。
- ステップ 3** VM を起動し、VM が開始するまで待ちます。
- ステップ 4** ローカル管理に接続するためのローカル管理コマンドを実行します。
- a) `central-lun connect local-mgmt#` と入力し、Enter キーを押します。
  - b) `UCS(local-mgmt)# enable cluster[Peer Node IP][Cluster Virtual IP]` コマンドを入力し、Enter キーを押します。  

This command will enable cluster mode on this step. You cannot change it back to stand-alone.  
All system services and database will also be restarted.  
Are you sure you want to continue? (yes/no)
- ステップ 5** 「enable cluster mode」プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
- ステップ 6** 共有ストレージデバイスの入力を求められた場合、共有ストレージデバイス番号を入力し、Enter キーを押します。  
この VM は、デフォルトで **Forced Primary** にされるクラスタのノード A になります。  
システムは、スタンドアロンモードからクラスタモードに変換して、ローカルディスクから共有ディスクへすべてのデータを転送します。
- ステップ 7** クラスタの状態をチェックします。ノードがプライマリに選択されたように表示されます。  
ノード B をクラスタに追加できます。参照先 [ノード B への Cisco UCS Central のインストール](#), (40 ページ)
- 注意** VM は Cisco UCS Central のセカンダリ ノードをインストールする前に再起動され、プライマリ ノードのデータベースおよびサービスは使用できません。 **cluster force primary** コマンドを実行して、プライマリ ノードの VM のデータベースとサービスをリカバリします。
-





## 第 7 章

# Cisco UCS Manager の使用

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Cisco UCS Central, 61 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録, 63 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録, 64 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除, 65 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除, 65 ページ](#)

## Cisco UCS Cisco UCS Central

Cisco UCS Central は、1 つまたは複数のデータセンターでの複数の Cisco UCS ドメインの一元管理機能を実現します。Cisco UCS Central は Cisco UCS Manager と連携して、増大する Cisco UCS 環境にスケーラブルな管理ソリューションを実現します。Cisco UCS Central は、Cisco UCS ドメインを管理するための基本エンジンである Cisco UCS Manager に取って代わるものではありません。その代わりに、Cisco UCS Manager で提供される機能に基づいて、各ドメインに変更を反映するために Cisco UCS Manager を操作します。

Cisco UCS Central は、API などの Cisco UCS Manager のすべてのローカル管理機能を、低減または変更しません。そのため、Cisco UCS Central を使用する以前と同じ方法で Cisco UCS Manager の使用を継続できます。また、既存のすべてのサードパーティ統合は変更せずに引き続き動作することが可能です。

### Cisco UCS ドメインの登録

Cisco UCS Central から Cisco UCS Manager を管理するには、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録します。Cisco UCS ドメインは、ドメイングループの一部またはグループ化されていないドメインとして登録できます。ドメイングループがある場合、ドメイングループのすべての登録済みドメインは、共通のポリシーやその他の設定を共有できます。

完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスを使用して、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録します。



(注) Cisco UCS Central を使用した初期登録プロセス中に、すべてのアクティブな Cisco UCS Manager GUI セッションが終了します。

Cisco UCS Central でドメインを登録する前に、次の手順を実行します

- Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central を確実に同期させるために、双方で NTP サーバおよび正しいタイムゾーンを設定します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の日時が同期していない場合、登録は失敗する可能性があります。
- Cisco UCS Central のホスト名または IP アドレスを取得します。Cisco UCS Central と Cisco UCS Manager の両方に対して同じホスト名を使用することはできません。スタンドアロンモードの場合、各 VM の IP アドレスを使用します。クラスタモードでセットアップする場合は仮想 IP アドレスを使用します。



(注) 常に完全修飾ドメイン名を使用して Cisco UCS ドメインを登録することをお勧めします。

- Cisco UCS Central を展開したときに設定した共有秘密を取得します。



(注) ドメイン名を使用して Cisco UCS ドメインを登録する場合は、Cisco UCS Manager によって別の IP アドレスに正常に移行できます。

IP アドレスを使用して Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録する場合は、Cisco UCS Manager によって使用される IP アドレスを変更または交換することはできません。IP アドレスの変更または交換が必要な場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

- Cisco UCS Manager の GUI または CLI を使用して、Cisco UCS ドメインを登録または登録解除できます。
- Cisco UCS Central が RHEL 7.2 KVM に展開された場合、Cisco UCS ドメインに最初に登録するときに、**set regenerate yes** コマンドを使用して証明書を再生成する必要があります。
- 登録された Cisco UCS ドメインで Cisco UCS Central からのラウンドトリップが 300 ミリ秒以上遅延する場合、Cisco UCS ドメインのパフォーマンスに影響する可能性があります。
- Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除すると、グローバル サービス プロファイルは Cisco UCS Manager のローカル サービス プロファイルになります。



**警告**

Cisco UCS Central で登録する前に、Cisco UCS Manager をリリース 2.1(2) にアップグレードする必要があります。Cisco UCS Manager リリース 2.1(1) を Cisco UCS Central リリース 1.1 に登録しようとする、Cisco UCS Manager は登録が成功したことを表示します。しかし、Cisco UCS Central インベントリでは登録された Cisco UCS ドメインが表示されません。Cisco UCS Central の障害が、登録の失敗に関する重大なエラーを表示します。

## Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録

### 手順

- ステップ 1 Cisco UCS Manager の [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
- ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域で、[Register With UCS Central] をクリックします。
- ステップ 5 [Register with UCS Central] ダイアログボックスで、次を実行します。
  - a) [Hostname/IP Address] フィールドに、ホスト名または IP アドレスを入力します。  
IP アドレスではなく、ホスト名を使用することをお勧めします。ホスト名を使用するには、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合や、DNS 管理がローカルに設定されている場合、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されている場合や、DNS 管理がグローバルに設定されている場合、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。
  - b) [Shared Secret] フィールドに、共有秘密またはパスワードを入力します。
- ステップ 6 [Policy Resolution Control] 領域で、Cisco UCS Central からポリシーまたは設定を管理する場合は [Global] をクリックし、Cisco UCS Manager からポリシーまたは設定を管理する場合は [Local] をクリックします。
- ステップ 7 [OK] をクリックします。

# Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # <b>create control-ep policy</b> <i>ucs-central</i>	<p>Cisco UCS ドメイン を Cisco UCS Central に登録するために必要なポリシーを作成します。</p> <p><i>ucs-central</i> は Cisco UCS Central が展開されている仮想マシンのホスト名または IP アドレス にすることができます。</p> <p>(注) IP アドレスではなく、ホスト名を使用することをお勧めします。ホスト名を使用するには、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合や、DNS 管理がローカルに設定されている場合、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されている場合や、DNS 管理がグローバルに設定されている場合、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
ステップ 3	Shared Secret for Registration: <i>shared-secret</i>	Cisco UCS Central を導入したときに設定された共有秘密 (またはパスワード) を入力します。
ステップ 4	UCS-A/system/control-ep # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、Cisco UCS ドメインを FQDN を使用して Cisco UCS Central システムに登録し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # create control-ep policy UCSCentral.MyCompany.com
Shared Secret for Registration: S3cretW0rd!
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

# Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除

**注意**

本稼働システムに登録された Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合は、シスコ テクニカル サポートにお問い合わせください。

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合、以下の点に注意します。

- Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのサービス プロファイル、ポリシー、およびその他の設定を管理することはできなくなります。
- すべてのグローバルサービス プロファイルとポリシーはローカルになり、ローカルエンティティとして機能し続けます。ドメインを再登録しても、サービス プロファイルおよびポリシーはローカルのままです。

**手順**

- ステップ 1** Cisco UCS Manager の [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
- ステップ 3** [UCS Central] ノードをクリックします。
- ステップ 4** [Actions] 領域で、[Unregister With UCS Central] をクリックします。
- ステップ 5** Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

# Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除

**注意**

本稼働システムに登録された Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合は、シスコ テクニカル サポートにお問い合わせください。

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除する場合、以下の点に注意します。

- Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのサービス プロファイル、ポリシー、およびその他の設定を管理することはできなくなります。

- すべてのグローバルサービスプロファイルとポリシーはローカルになり、ローカルエンティティとして機能し続けます。ドメインを再登録しても、サービスプロファイルおよびポリシーはローカルのままです。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # <b>delete control-ep policy</b>	ポリシーを削除し、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録解除します。
ステップ 3	UCS-A/system # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # delete control-ep policy
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```